地域・コミュニティ活動助成

一般社団法人 がもう夢工房

滋賀県東近江市

近江商人屋敷を拠点にガリ版文化を活かした地域づくり

11月に岡村家旧邸宅で開催した「謄写版ステップアップ講座」。1泊2日の体験メニューを用意した

団体設立経緯

東近江市では、協働のまちづくりを掲げ、平成の合併時の14の自治会連合会単位で地域づくりを包括するまちづくり協議会が設立されました。旧蒲生町も2006年に**蒲生地区まちづくり協議会**を設立し、『このまちで心豊かに住み続けたいと思えるまちづくり』を基本目標に進められています。2015年にまちづくり計画が改訂され、「地域内でヒト・モノ・カネを循環させる」ことが計画に加えられ、その実践部隊として住民の資金（志金）をもとに同年に設立しました。

活動概要と活動対象範囲

東近江市蒲生地区内にある**謄写版（ガリ版）**を発明した近江商人・堀井新治郎の旧邸宅（現・**ガリ版伝承館**）、重役の岡村家旧邸宅を活用して、ガリ版文化・芸術をはじめ、蒲生野、御代参街道岡本宿など地域資源を知ってもらい、地域交流を図る活動に取り組みました。

ガリ版伝承館では企画展、岡村邸では謄写版体験講座、地区内ホールでガリ版文化伝承シンポジウムを開催しました。また、ガリ版体験プログラムやガリ版情報に特化したホームページを制作しました。

活動に至った理由や背景

2019年、ガリ版発祥の地を大きな地域資源として位置付け、まちづくりにどのように活かしていくべきかを考える「蒲生地区におけるガリ版伝承を考える会」が、地域団体、市、自治会など8つの産官民団体の協働体により設立。約40名によるワークショップを3回開き、全体構想をまとめていきました。

構想において最初に行うべき活動として位置付けられた中で、ソーシャルビジネスとして進める活動について、当法人が中心的役割を担うことなったものです。

活動内容と成果

当初計画では①ガリ版関係情報の発信 ②多様なガリ版体験プログラム作成と試行 ③企業研修のプログラム作成の3つの活動を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染が拡大する中、実施内容の変更を余儀なくされました。③の活動については、コロナ禍で企業との協議は困難と判断し実施を断念しました。

①ガリ版関係情報の発信

●ガリ版伝承館企画展

ガリ版伝承館では、常設展の他に秋に企画展を毎年開催しています。これまで主に2つの団体で企画・運営をしていましたが、スタッフや予算面で小規模な展示しかできず、内容面や集客面が課題となっていました。今回は、がもう夢工房以下、新ガリ版ネットワーク、蒲生コミュニティセンター、地元のまちづくり団体・ガリ版芸術村、東近江市との協力体制を組みました。準備には多い日で1日10人ほど、通算のべ36人が参加。これまでにない大掛かりな展示に仕上げることができ、新スタッフにもガリ版の文化を知ってもらうよい機会となりました。

「**ガリ版の道具たち展**」と題し、11月7日～12月6日の月・火曜日を除く23日間開催しました。7月にガリ版研究の第一人者・志村章子氏（川崎市在住）から、膨大な研究資料・ガリ版器材の寄贈を受けたことから、その資料を中心に、ガリ版器材の変遷がわかる350点の資料を展示しました。期間中の入館者は約520名でした。前年からは100人増だったものの、コロナ禍で、例年11月に開催していた「ガリ版祭り」が中止となった影響もあり、予想を大きく下回ってしまいました。

その一方、実際の来館者からは、ガリ版の変遷や産業史の中での意義などがわかりやすいと好評を博しました。また、東京や地元大学の学生グループをはじめ、ガリ版を知らない若年層や研究者の来館もあったことは大きな成果でした。

11月から12月にかけて開催したガリ版伝承館の企画展示の模様。350点の資料を展示し、器材の変遷がわかる構成とした

11月に開催したガリ版文化伝承シンポジウム。東京や福岡からリモート中継した

●ガリ版文化伝承シンポジウム2021「20世紀の日本社会を支えたガリ版―過去からミライへ―」

謄写版（ガリ版）の文化を伝承するためには、20世紀の日本社会にガリ版の果した役割を多くの人たちに知ってもらうことが重要です。そこで、ガリ版をテーマにしたシンポジウムを企画し、500人収容の市立あかね文化ホールで、11月22日午後から開催しました。

開催にあたっては9月17日に蒲生地区まちづくり協議会、がもう夢工房、新ガリ版ネットワークの9名からなる実行委員会を結成。開催前の2回の会議を経て実施しました。

コロナ禍のため当初計画の内容を大きく変更し、リモートを活用して開催しました。東京・福岡をつないでの講演や活動報告、ビデオ映像を取り入れるため8月から7回のリハーサルを重ね、当日に臨みました。

（上）ガリ版の情報発信に特化したホームページを作成した（https://gamo-gariban.com/）
（下）謄写版画作家をインタビュー撮影

（左）東近江市役所蒲生支所には、ガリ版発祥の地をアピールする横断幕が掲げられた　（右）ガリ版でつくった応援メッセージカードの展示

当日は20名がスタッフとなり支えてくれました。シンポジウムのそれぞれの講演、報告などに対しては高い評価を得ましたが、意見交換の場がなく盛り上がりに欠けた面がありました。

3密を避けるために人数制限しましたが、予想を上回る160名の参加がありました。県外からの参加もありましたが、基本的には地域の方が多く、ガリ版によるまちづくりに対する熱意や関心の高さを感じました。また、YouTubeに同時配信しており、当日視聴者約25件、後日視聴者500件以上で、報道関係にも大きく取り上げられました。

●ホームページの制作

制作については民間委託しましたが、新ガリ版ネットワーク会員の指導を得て3月に仕上がりました。謄写版画作家・助田篤郎氏（福井県在住）の動画も制作し、シンポジウムで上映後、ホームページ上に掲載しました。

●市役所ロビーなどの市の公共施設での展示

市役所蒲生支所では、ガリ版コーナーの設置と共に、「ようこそ!! ガリ版発祥の地へ」と書かれた長さ7mの横断幕が庁舎外壁の正面に掲げられました。また滋賀県東京事務所のショーウインドウには、3月からパネルや謄写版器材などが展示され、行政の関心の高まりもみられました。

さらには、新型コロナ感染対策で医療現場をはじめ多くの分野で頑張っている皆さんに向けて、応援メッセージカードをガリ版（ボールペン原紙）でつくろうという企画では、まちづくり協議会が募り100名の方が賛同されました。各自で製版した原紙を岡村邸やガリ版伝承館へ持ち寄り、印刷される過程を当法人が指導しました。カードは市役所、公民館、伝承館、私鉄電車社内などに掲示されました。これらも本事業による波及効果だと言えます。

②多様なガリ版体験のプログラム作成と試行

●謄写版ステップアップ講座

ガリ版文化・芸術を「体験して」いただく活動として、現在ある堀井家本家を活用した簡単な体験に加え、中級・上級など様々な体験メニューを予定していました。具体的には旧岡村邸を活用し、謄写版画作家などと連携したプログラムを各1回試行。その際には、既に当法人が着地型観光プロジェクトで実践している地区内の梵釈寺での坐禅体験、農泊体験、蒲生野を歩くフットパスなども組み込むというものです。ガリ版体験の試行に限っては実施できたものの、それ以外はコロナ禍で阻まれました。

試行は、謄写版ステップアップ講座として、5名限定、1泊2日、2回（11月12・13、26・27日）で募集しました。キャンセルもあり、のべ7名の参加となりました。大半が40 ～ 50代の方で、遠くは福岡県から参加されました。講師は助田氏と、若手ガリ版作家の水口菜津子氏にお願いし、岡村邸を使って実施しました。

「謄写版ステップアップ講座」では外部から講師を招き、古民家でガリ版体験を提供

清掃中の岡村家旧邸宅。がもう夢工房が主体となり、ガリ版伝承によるまちづくりへの活用につなげる

ガリ版印刷体験のプログラムをまとめて紹介するリーフレット

岡村邸は70年間空き家であったため、不要な家具類、衣類、夜具類があり、それらの処分が必要でした。清掃や庭の除草・伐採なども合わせて計8回、のべ25人が参加。当法人だけでなく他の地域団体にも応援いただき、体験スペースや休憩室などの整備ができました。

講座1日目の夕食後には交流会を開き、受講者から多くの貴重な意見をいただきました。終了時にはアンケートも実施しました。受講者・講師の意見や主催者からの目で多くの課題や改善点がわかり、今後の体験プログラムの参考となりました。

●ガリ版体験メニューの作成

謄写版ステップアップ講座での調査内容や、若手謄写版作家や役員の意見を聴取してガリ版印刷体験プログラムをまとめ、A4サイズの**リーフレット**を作成しました。

初級から上級用まで7つのコースと共に、出前講座、貸室、器材のレンタルなどのメニューを掲載。ガリ版体験とセットとした蒲生野フットパスや、農家民泊などの相談にも応じられるようにしました。このメニューのリーフレットは各施設に配布したほか、ガリ版ホームページにも掲載しました。

課題と解決方策

本事業の期間は新型コロナ感染防止対策の最中であったため当初の事業計画を大きく変更せざるを得ず、多くの問題解決のため四苦八苦しました。

シンポジウムでは、講師が東京在住で会場での講演ができなくなりました。そこで活動報告を依頼していた版画家にお願いして、講師宅でリモート操作してもらい無事講演できました。活動報告についても東京・山形・京都・滋賀・福岡と全国の報告ができたことは、逆にコロナ禍でリモートを取り入れたお陰といってよい程です。予定にしてなかったネット配信によって多くの人に視聴いただき、大きなホールでの開催よりも実施効果があったと言えます。また、岡村邸でのガリ版体験施設としての、機能的な課題を知ることができました。

一方で、謄写版ステップアップ講座で、当法人が試行しようとしていた坐禅体験や蒲生野フットパス、農家民泊といった着地型観光を取り入れることができず、ガリ版体験を含めたコースづくりの問題点の洗い出し・検証に課題を残すこととなりました。

今後の予定

このたびの助成事業により多くの成果が得られたと共に、課題も明らかとなりました。

特に情報発信のひとつとして、チラシやホームページによってガリ版体験プログラムを周知し、当地へ来ていただいての体験と共に、遠方への出前講座の機会を増やしていく予定です。また、企業研修プログラムの作成についても進めます。旧岡村邸については、宿泊型施設として整備を進めます。ガリ版だけでなく、色々な手づくり体験の場、異世代、多文化交流が図れる場、着地型観光の拠点として活用を図っていく予定です。

一般社団法人 がもう夢工房

2015年5月設立、2017年6月法人化／メンバー数：84人／代表者：理事長 向井隆（むかい・たかし）
●〒529-1572　滋賀県東近江市桜川西町281-1　事務局長 東田八郎
☎FAX0748-56-1395　✉gamo.yume@gmail.com
www.gamoyume.org　www.facebook.com/gamo.yume

蒲生地区まちづくり協議会の傘下組織として、「食の6次産業化」「着地型観光」「農業支援」を進めています。特に農家民泊とガリ版の伝承、コロナ禍でのひとり親のサポートに力を入れています。